



但馬水産技術センターだより



漁況情報（G2130号）

令和3年10月11日
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

1. ソデイカ（あかいか）の中短期予報をお知らせします。

これまでの調査結果をもとに、別紙のとおり「令和3年度日本海ソデイカ（あかいか）中短期漁況予報」を取りまとめましたので、ご活用ください。

【内容抜粋】

現況：10月上旬まで

- ・ 漁況指標値（香住支所の1日1隻あたり漁獲量）は、9月中旬まではほぼ操業がなく、9月下旬に57kg、10月上旬に58gと低調である。
- ・ 漁獲物のサイズは、10月上旬時点で概ね胴長30cm～70cm台と幅広くみられた。

今後の漁況予報

- ・ 現況では但馬沿岸への漁況指標値は低調であり、過去の傾向から本格的な漁期に入る9月の水準が低調な場合は漁期後半も引きずることが多く、低迷した直近2年並み（平均80kg±30kg）と低めに推移する可能性が高い。
- ・ 今後の漁獲サイズは現在の漁獲主体が成長した胴長40cm台後半～70cm台後半のものが中心になると考えられる。
小型サイズもわずかにみられるが、現況では新たな加入群の兆候としては弱いと考えられる。

漁場環境の推移について

- ・ 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しの規模は「平年並み」、接岸状況は「やや離岸」で経過する見込みである。9月の海況から冷水域の中心部は概ね丹後半島沖合の北緯36°以北にあると推定される。
- ・ 冷水域の規模と張り出しの経過、好漁場の指標となる水深50m深の19℃等温線、水深100mの15℃等温線の分布から、イカの分布は沖合まで分散しやすいと考えられる。

詳細は、別紙の資料1をご覧ください。

また、当センターのホームページにカラー版を掲載します。

<http://www.hyogo-suigi.jp/tajima/index.htm>

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（担当：鈴木）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684 email：nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

令和3年度日本海ソデイカ(あかいか)漁況情報(中短期予報)

* 但馬地域の沿岸漁業にとって重要な対象種となっている「ソデイカ(あかいか)」について、現況と中短期的な漁況予報をお知らせします。操業の参考にできれば幸いです。

現況と見通し(予報対象期間:令和3年10月中旬~11月)

【現況:10月上旬まで】

- ・ 漁況指標値(香住支所の1日1隻あたり漁獲量)は、9月中旬までほぼ操業がなく、9月下旬に57kg、10月上旬に58kgと低調。
- ・ 漁獲物サイズは10月上旬時点で、概ね胴長30cm~70cm台(体重約1kg~17kg台)と幅広くみられた。群れの加入(来遊)は断続的であり、一群れ当たりの絶対量は少ないと考えられる。

【今後の漁況予報】

- ・ 現況では但馬沿岸への漁況指標値は低調であり、過去の傾向から本格的な漁期に入る9月の水準が低調な場合は漁期後半も引きずることが多く、低迷した直近2年並み(平均80kg±30kg)と低めに推移する可能性が高い。
- ・ 今後の漁獲サイズは現在の漁獲主体が成長した胴長40cm台後半~70cm台後半(体重約3kg~18kg台)のものが中心になると考えられる。
- ・ 小型サイズもわずかにみられるが、現況では新たな加入群の兆候としては弱いと考えられる。
- ・ 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しの規模は「平年並み」、接岸状況は「やや離岸」で経過する見込み。9月の海況から冷水域の中心部は概ね丹後半島沖合の北緯36°以北にあると推定。
- ・ 対馬暖流域の表面水温は「平年並み」、50m深水温は日本海西部で「やや高め」で経過する見込み。
- ・ 冷水域の規模と張り出しの経過、好漁場の指標となる水深50m深の19℃等温線、水深100mの15℃等温線の分布から、イカの分布は沖合まで分散しやすいと考えられる。

※日本海西部海域の海況予測には、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所の拡張版日本海海況予測システム(JADE2 <http://jade2.do.affrc.go.jp/jade2/>)を利用したほか、同機構の太平洋および我が国周辺の海況予測システム(<https://fra-roms.fra.go.jp/fra-roms/index.html>)、日本海漁場海況速報(<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/Physical/sokuho.html>)、気象庁の日本海の診断表、データ(http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/db/kaikyo/dbindex_NK.html)を参考にしました。

1. 漁況の推移(図1)

漁況の指標としているJF但馬香住支所の1日1隻あたりの漁獲量(旬別平均値)は、9月中旬までほぼ操業がなく、9月下旬は57kg、10月上旬は58kgで推移しています。

但馬沿岸での漁模様は低調であり、来遊指標は前年並み~下回る水準で推移しています。

2. 漁獲物組成の推移(図2)

十分なサンプル数を測定できていませんが、JF但馬香住支所での市場調査の結果、9月中旬では主体となるサイズがなく、胴長30cm台(1.0~2.5kg)~70cm台前半(13~15.5kg)と幅広いサイズで割合に大きな差がみられませんでした。

10月上旬も主体となるサイズがなく、胴長30cm台後半(2.0~2.5kg)~70cm(13.5~17.5kg)と幅広いサイズで割合に大きな差がみられませんでした。

年によって10月頃に別の小型サイズの群が加入してきます。現況では30cm~40cm台前半の小型サイズの割合は、新たな加入群の兆候と判断するまでには至らないと考えられます。

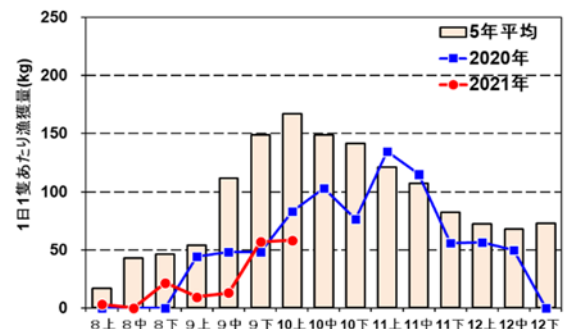


図1 旬別1日1隻あたり漁獲量の推移

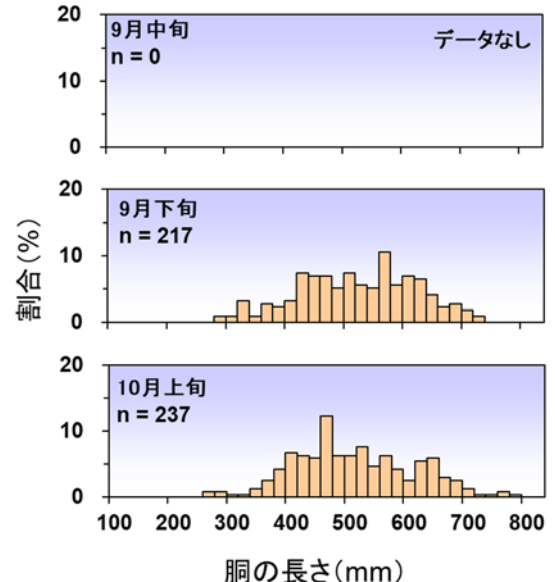


図2 漁獲物の体長組成

3. 漁場環境の推移 (図3)

これまでの調査により、好漁場は水深 50m の水温が 19℃以上、水深 100m の水温が 14~15℃以上の海域に形成されることが分かっています。また、この時期の山陰沖漁場の水温は、季節的な変動よりも沖合部に出現する冷水域の動きに大きく影響されます。

今漁期の 50m 深、100m 深の水温の変化を「拡張版日本海海況予測システム(JADE2)」により予測しました(図3)。

・太い赤線(50m 深の 19℃、100m 深の水温 15℃)示した等温線よりも水温の高い海域が「好漁場」となる可能性のある海域です。

・9 月の海況では、丹後半島沖合の北緯 36° 以北、隠岐諸島の北の北緯 37° 以北に冷水域が推定されていました。これが今漁期の漁場形成に影響を及ぼすことが考えられます。

【10月上旬】(図3上段)

・但馬沖の 50m 深では、水温 19℃以上が沖合まで広く分布。北緯 36° 以南には沿岸寄りに 22℃等水温線が分布。

・但馬沖の 100m 深では、隠岐諸島周辺と丹後半島沖でやや低い水温帯が分布するほかは、水温 15℃以上が沖合まで広く分布。

【10月中旬】(図3中段)

・依然として但馬沖の 50m 深では、水温 19℃以上が沖合まで広く分布。10月上旬よりも沖合と沿岸の水温差が小さくなる。

・依然として但馬沖の 100m 深では、水温 15℃以上が沖合まで広く分布。
・15℃等温線の東端は、能登半島付近から若狭湾東方まで南下。

【11月中旬】(図3下段)

・但馬沖の 50m 深では、19℃等水温線が北緯 37° 付近まで南下。北緯 36° 以南には沿岸寄りに 20℃等水温線が分布。

・但馬沖の 100m 深では、15℃等水温線が北緯 38° 以北まで北上。北緯 36° 以南は沿岸寄りに 18℃等水温線が分布。

冷水域や暖水域の影響により、海域によっては海流の向きに大きな変化(速い逆潮等)が生じる場合がありますので、作業時にはご注意ください。

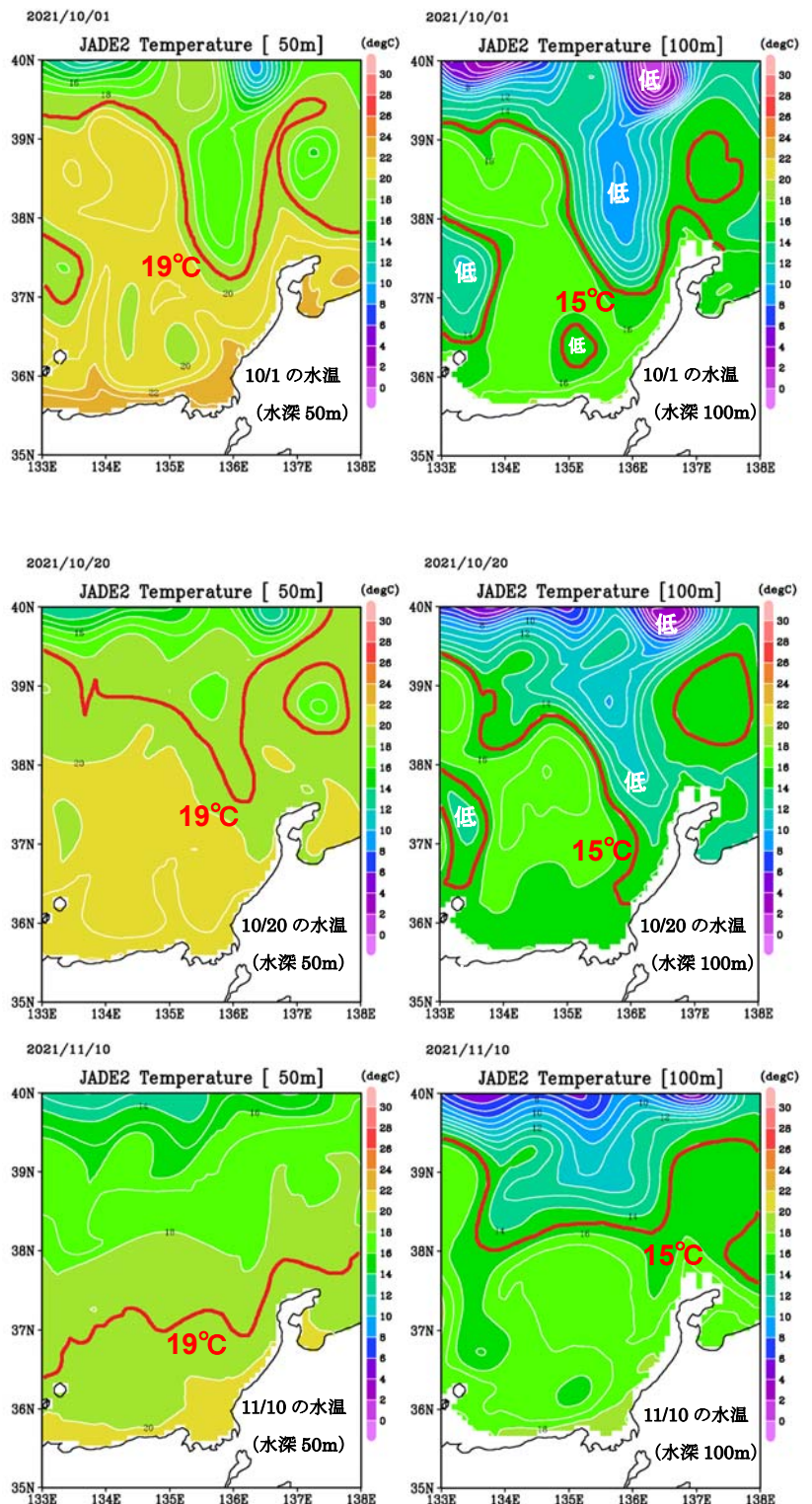


図3 水深 50m(左)、水深 100m(右)の水温分布予測(10/1 は再現図)
(太線:50m 深における 19℃等温線、100m 深における 15℃等温線)